

「大切なものは目には見えない」～「非認知能力」を育むためのしかけ～

校長 風間 浩也

学校の周囲の梅が紅白の花を咲かせ、芦花公園駅から続く街路樹のモクレンの蕾（つぼみ）も、ふわふわした毛をまといながら、着実に春に向かって膨らむ季節となっています。

年が明けて初めて出勤する朝のことです。私は、学校の北門に向かう遊歩道の途中で思わず声を上げそうになった景色に出会いました。その日は、正に年明けの初出勤にふさわしい、どこまでも青空が澄み、気持ちのいい朝でした。学校が休みのために、いつもよりゆったりとした気持ちで、空を見上げながら文学館方面から遊歩道を学校へ向かっていると、見慣れぬ「黄色い球体」が木の枝にいくつもぶら下がっているのに気がつきました。木の下まで行ってよく見てみると、それは黄色に熟れたカラスウリでした。なんと30個近く、まるでクリスマスツリーの飾りのように枝に絡みついて揺れているのです。夏くらいからそこにあったのでしょうか？これまで何十回とその下を通り過ぎていたはずなのに、私はカラスウリの存在に全く気づいていませんでした。葉っぱに隠されていた時期はもちろん、木枯らしが葉を全部吹き飛ばした後も。私は、こんな愉快なものが頭の上ぶら下がっているのに気づかずに毎日歩いていたのです。

人は目にしているものを全て意識し、把握している訳ではありません。関心をもって見ようとするなど、何か意識するきっかけがないと目にしている風景はただ流れていくだけです。本来は、見えていたはずの風景の中でカラスウリを見落としていた私のように、大切なものを見逃してしまうことが、学校現場でもあるのではないかと自戒しました。

この「見えないもの」について、今、教育界ではとても大切なポイントとして取り上げられています。これまでもお伝えしているように、「点数や数値に表れない力」＝「非認知能力」を育むことが、変化の激しいこれからの世界を生きる上で重要とされています。OECD（経済協力開発機構）が15項目に分類している主な「非認知能力」の一部を紹介します。

- ① 課題に粘り強く取り組む力（責任感、感情コントロール、忍耐力）
- ② 情緒の調整（感情をコントロールする力＝ストレス耐性、感情の調整力、前向きに物事を捉える力）
- ③ 協調性（他者と良い関係を築く力＝共感性、協調性・礼儀正しさ、人と関わることを楽しむ力）
- ④ 思考の柔軟性（新しいことを受け入れる力＝好奇心、創造性、寛容性）
- ⑤ 自己志向性（自ら目標をもち、行動する力＝自信、自己効力感、責任ある意思決定、目標に向かう力）

いずれも「目には見えない力」であり、これまでの「教科指導重視の学校教育」では、教育の主目的ではなく、副次的な要素として捉えられていたものです。もちろん「人間性」を育むことは、古来より重視はされてきましたが、学校において、これほど意図的、計画的に教育に取り入れられるようになったのは最近のことです。

先日、「せたがや学びメッセ」が開催され、世田谷区の教育関係者に向けて、様々なテーマに沿った各校の実践発表が紹介されました。20近くのグループの提案や発表があった中で、多くの研究グループが「非認知能力」について取り上げていました。提案の1つである『『せたがや探究的な学び』ワーキンググループ』の発表において、今年度、本校の川崎副校長が視察に行き学んできた秋田県大館市の取組が紹介されていました。大館市（秋田県）は「全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）」の結果が非常に高いことから、全国から教育関係者が視察に訪れています。しかしながら、大館市としては、学力テストの点数を高めるための学習の対策をしているわけではなく、その秘密は「自己肯定感を高める工夫」にあるとのことでした。つまり、「非認知能力」のうち、特に「自己肯定感」が高まると、学力も向上するということです。令和7年度の秋田県の中学3年全国学力テストにおいて、「自分にはよいところがあると思う」という調査回答の肯定率は、なんと**89.3ポイント**でした。ちなみに、本校も全国、東京都を大きく上回っていますが、**89.1ポイント**と秋田県にはわずかに及んでいません。大館市のある中学校の取組では、「学級全員で積極的に学び合う」ために、必ずお互いの発言に温かい反応（認める、共感する、ほめるなど）をすることや多くの人が発言できるような工夫をしていたそうです。学ぶことと同時に、「認められること」が何よりも大切なことであり、その空気や雰囲気は、学校や学級で意図的に醸成することができることを証明する実践だと感じています。

さて、本校では、学芸発表会の展示部門が先週開催され、その中で互いの作品を大いに褒め合っている場面に遭遇しました。また、舞台発表での中3ダンス発表やI組の合奏において、仲間を励まし、盛り上げている姿は、本校の大きな財産として、後輩達に引き継いでほしいものだと思います。さらに、冬休みが終わって、地域の方々と学校の「あいさつキャンペーン」を行っていた際には、地域の方々から芦花中生の挨拶についてお褒めの言葉をいただきました。

私たちは、日頃、つい分かりやすい数値や目の前の景色で子ども達を評価してしまいがちです。少し視点をずらしたり、よりよく見ようと心がけたりすることで、子どもの内面にある「見えないもの」にも気づくようになるのではないのでしょうか。そして、「見えないもの」を大切に育んでいくために、子ども達が「認められている」と感じられるような言葉かけや関わり、子ども達の内面の「見えないもの（見えにくいもの）」を見ようとする心がけを大切にしていきたいと思っています。

今年度も残りわずかとなりますが、引き続き本校の教育にご理解と温かいご支援をよろしく願いいたします。

（カラスウリは、今日もまだたくさんぶら下がっています。）

1月の活動

【箏楽（お琴）教室体験（1年生）】

1月16日（月）、1年生の音楽の時間に、箏楽教室体験が実施されました。昨年度に引き続き、講師として、令和天皇即位の礼での演奏もされたご経験もある、演奏家の久松彩子様をお迎えしました。

2人に1面、お琴を準備して、久松先生に教わりながら、お琴の演奏に挑戦しました。「難しいけど楽しかった。」「楽譜を見ながら演奏できるようになりたい。」伝統的な音楽文化に親しむとともに、



楽しさを感じることができ、とても貴重な体験となりました。

【あいさつキャンペーン】

1月13日（火）～16日（金）まで、小中学校と地域の方々による「挨拶キャンペーン」が実施されました。3年生を中心に、たくさんのボランティア生徒が参加しました。烏山のスター、からびょんと、挨拶わんちゃんも協力してくれました。参加生徒からは「寒かったけど、朝から挨拶ができて気持ちよかったです。」「小学生が元気に挨拶してくれてうれしかった!」といった声を聞くことができました。さすが芦花中生!!



【学芸発表会（展示の部）】



1月19日（月）～24日（土）まで、学習発表会（展示の部）が開催されました。

各教科や総合的な学習の時間、

部活動などで作成した作品や新聞など、どれも力作ぞろいです。保健体育科3年生のダンス動画を見学していた小学生や保護者の方が笑顔になっていました。芦花小学校の児童のみなさんも、「中学生ってすごいなあ」と興味津々に見学してくれていました。特に土曜日は沢山の保護者、地域の皆様にご来校いただきました、ご参観下さり、誠にありがとうございました。

【九九検定（1学年）】



1月23日（金）、「九九検定」が実施されました。これは、芦花小学校2年生のかけ算

九九を、中学1年生が先生となって、正しく暗唱できているかを確認し、合格すれば、シールやスタンプをあげる、といった、芦花の学び舎伝統の取組です。スタンプをもらうために、児童の皆さんがうれしそうに今回先生役を務めた1年生も5年前はテストをしてもらう側、でした。

「自分たちも小学校2年生のときにやってもらったことを思い出して、懐かしかった。」「小学生が頑張っていて、とてもかわいかった。」

小中のバトンが引き継がれた素敵な時間でした。

2月の主な行事予定

2日（月）全校朝礼・ESAT-J(1,2年生)
専門、中央委員会
3日（火）プラネタリウム（2年生、1組）
4日（水）出張児童館、校内フリースペース
9日（月）生徒会朝会、職員会議
11日（水・祝）建国記念の日
13日（金）新入生保護者説明会
16日（月）避難訓練

18日（水）学び舎の日（小中合同研究日）
14日（金）新入生保護者説明会
21日（土）都立一般入試
23日（月）天皇誕生日
24日（火）定期考査（英・理・社・音・技家）
25日（水）定期考査（数・国・美・保体）

